

## 授業が変わる！評価が変わる！

### これからの中学校英語科における授業づくり ～評価問題編～

今年度から学習指導要領が全面実施され、学習評価の在り方が変わります。それに伴い、評価問題も変わります。そこで、本コンテンツでは、**評価問題の改善ポイントについて、具体例を示しながら説明します。**ここでは、**表現の領域(「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」及び「書くこと」)**について示します。

#### 1 英語の目標

評価問題を作成する際には、まずは英語の目標を確認することが大切です。「話すこと[発表]」、「話すこと[やり取り]」及び「書くこと」の目標を以下に示します。

話すこと [やり取り]	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。
話すこと [発表]	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。
書くこと	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説【外国語編】 pp.22-29 を基に作成

#### 2 各観点において評価すること

表現の領域(「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」及び「書くこと」)において各観点で評価することは以下のとおりです。

観点	評価すること
知識・技能	(特定の言語材料の) <b>英語使用の正確さ</b> を評価します。
思考・判断・表現	<b>コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じた表現内容の適切さ</b> を評価します。
主体的に学習に取り組む態度	基本的には「 <b>思考・判断・表現</b> 」と <b>一体的に</b> 評価します。 ※言語活動で表出された態度を見取ります。

### 3 評価問題作成のポイント

#### ポイント

- ① 「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」及び「書くこと」の目標を確認します。
- ② 出題する問題により評価すること(「知識・技能」の評価問題 / 「思考・判断・表現」の評価問題)を明確にします。
- ③ 「知識・技能」の評価問題においては、特定の言語材料\*1を使用して作成する必要があります。
- ④ 「思考・判断・表現」の評価問題においては、特定の言語材料を必ず使用しなければならないわけではありません\*2。
- ⑤ 「知識・技能」の評価問題においては、特定の言語材料の使用を明示することは避けます。実際のコミュニケーションの場面を設定するとともに、対話の文脈から特定の言語材料を使用する必然性をもたせません。
- ⑥ 「思考・判断・表現」の評価問題においては、コミュニケーションを行う目的や場面、状況を具体的に設定します。
- ⑦ 「思考・判断・表現」の評価問題において、「知識・技能」及び「主体的に学習に取り組む態度」を同時に評価することもできます(pp.4-5参照)。

(注1) 特定の言語材料とは、該当単元や該当学期において扱った言語材料を示します。

(注2) しかしながら、特定の言語材料が必然的に使用されるよう、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを工夫することは大切です。

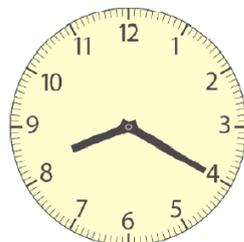
### 4 「話すこと[やり取り]」における評価問題

#### (1) 「知識・技能」の評価問題

「話すこと [やり取り]」における「知識・技能」は、**英語使用の正確さ**を評価します。評価問題の例を以下に示します。

#### 【例1】

大問1 問題は、①から③まであります。解答時間は、それぞれ10秒です。それでは、始めます。



①What time is it?

「平成31年度 全国学力・学習状況調査」より

## 【例2】

特定の言語材料（一般動詞の過去形）を正確に用いてやり取りすることができるか評価するために、生徒に日曜日にしたことについて尋ねる質問をし、2ターン程度の短いやり取りをします。

Teacher: What did you do last Sunday?

Student: I... played TV game ...with my brother. It was fun.

Teacher: How long did you play the TV game?

Student: I played it ... for ...about ...4 hours.

Teacher: 4 hours? It's too long!

### ポイント

- ① 実際のコミュニケーションの場面を設定することが大切です。
- ② 特定の言語材料を使用して評価問題を作成します。
- ③ 評価問題においては、特定の言語材料の使用を明示することは避けます。2ページ【例1】においては、イラストにより、特定の言語材料(時刻の言い方)の使用を促しています。また、【例2】についても、日曜日にしたことを質問することで、特定の言語材料(一般動詞の過去形)を使う必然性をもたせています。



例 : be going to ~を用いてペアでやり取りしなさい。

### NG ポイント

- 実際のコミュニケーションの場面が設定されていない。
- 特定の言語材料の使用が明示されている。



### 改善ポイント

週末の予定についてやり取りする実際のコミュニケーションの場面を設定し、特定の言語材料 (be going to ~) を使用する必然性を!



特定の言語材料 (be going to ~) を正確に用いて応答することができるか評価するために、生徒に週末の予定を尋ねる質問をし、2ターン程度の短いやり取りをします。

例: インタビューテスト

Teacher: I'm going to visit my grandmother's house to celebrate her birthday next Sunday. What are you going to do next weekend?

## (2) 「思考・判断・表現」の評価問題

「話すこと [やり取り]」における「思考・判断・表現」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じた表現内容の適切さを評価します。評価問題の例を以下に示します。

### 【例】

#### (1) 内容

「AIの進歩と私たちの生活」に関する記事 (article) を読み、読んだことに基づいて考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合う。

#### (2) 準備する課題

次の指示文が印刷された用紙を準備しテスト前に配付する。

AIに興味をもっているALTが、「AIの進歩と私たちの生活」に関する下の記事 [Article about AI] に関して、どう考えたり感じたりするか、また互いの意見や感想についてどう思うかについて聞きたいと言っています。そこであなたたちは、この記事を読み、友達と意見交換することにしました。[Article about AI] を読み、その内容に基づいてペアでやり取りをしてください。読む時間は3分です。

[Article about AI]

People have created a lot of things throughout history.

These days, AI robots are used in some areas of our daily lives. AI products will change our lives in the future. It is easy for us to get better lives with AI. There are already some AI products around us, and new ones will be made. For example, an AI fridge will be made in the near future. The fridge will tell us what to cook with the food in it.

AI will make our lives happier. What do you think?

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』より

### ポイント

- ① 「話すこと[やり取り]」の目標に対応した評価問題を作成することが大切です。
- ② 「思考・判断・表現」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じた表現内容の適切さを評価します。したがって、表現内容の適切さを評価する基準となりうるコミュニケーションを行う目的や場面、状況を設定する必要があります。



例：[指示文] [Is English important for junior high school students in Japan?] についての記事を読んで友達とやり取りしてください。

### NG ポイント

□コミュニケーションを行う目的や場面、状況が具体的に設定されていないので、何をもちて表現内容の適切さを評価するのが難しい。



### 改善ポイント

[指示文] を change!

コミュニケーションを行う目的や場面、状況を具体的に設定!



例：[指示文] 英語教育に興味をもっているALTが、「日本の英語教育」に関する記事 [Is English important for junior high school students in Japan?] について、どう考えたり感じたりするか、また互いの意見や感想についてどう思うかについて聞きたいと言っています。そこであなたたちは、その記事を読み、友達と意見交換することにしました。記事の内容に基づいてペアでやり取りしてください。

評価問題においては、[指示文] にコミュニケーションを行う目的や場面、状況を具体的に示すことで、表現内容の適切さがより評価しやすくなります。



- ③ 「思考・判断・表現」を実際に評価する際は、表現内容の適切さを評価するための条件を設定します。条件を設定した上で、判定基準(ルーブリック)を作成し、評価を行うとよいでしょう。4ページ【例】の【条件】と【判定基準(ルーブリック)】を以下に示します。

**【条件】**

【条件1】: 読んだ英文を引用している。

【条件2】: 自分の考えたことや感じたことなどを理由とともに述べている。

【条件3】: 相手の考えを求めたり、話題を広げたり深めたりしながら対話を継続している。

**【判定基準(ルーブリック)】**

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	誤りのない正しい英文で話すことができる。	自分の考えを詳しく述べたり、効果的に引用したりしながら、3つの条件を満たしてやり取りしている。	自分の考えを詳しく述べたり、効果的に引用したりしながら、3つの条件を満たしてやり取りしようとしている。
b	誤りが一部あるが、 <u>コミュニケーションに支障のない程度の英文</u> を用いて話すことができる。	3つの条件を満たしてやり取りしている。	3つの条件を満たしてやり取りしようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を加工して作成

4ページ【例】においては、「思考・判断・表現」の評価問題において、「知識・技能」及び「主体的に学習に取り組む態度」の観点も同時に評価しています。その際、「知識・技能」における「コミュニケーションに支障のない程度の英文」がどこまでを示すのかについては、各中学校の英語科教員間で共通理解を図っておく必要があります。



- ④ 「思考・判断・表現」を実際に評価する際は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じた表現内容の適切さを評価します。英語使用の不正確さが「思考・判断・表現」の評価に反映されることがないようにします。

## 5 「話すこと[発表]」における評価問題

### (1) 「知識・技能」の評価問題

「話すこと [発表]」における「知識・技能」は、**英語使用の正確さ**を評価します。評価問題の例を以下に示します。

#### 【例】

特定の言語材料（受け身の文）を正確に話すことができるか評価するために、日本文化について、生徒に3文程度で説明させます。手順を以下に示します。

- ① モデルを示します [全体]。
- ② 生徒に指示文とカード（表に紹介する日本文化の写真，裏にその情報が記載されたもの）を渡します [個人]。

【指示文】あなたは、新しい ALT に日本文化を紹介することになりました。次の写真と情報カードを用いて説明しましょう。

#### 【カード例】

表:写真



#### 【情報カード】

裏:情報カード

- 1 呼び名:ようかん
- 2 材料:あずき
- 3 多くの人に愛されています。

- ③ 10 秒間準備時間を与えます。
- ④ 写真に示された日本文化について生徒に3文程度で説明させます。

#### ポイント

- ① 実際のコミュニケーションの場面を設定することが大切です。
- ② 特定の言語材料を使用して評価問題を作成します。
- ③ 評価問題においては、特定の言語材料の使用を明示することは避けます。【例】においては、実際のコミュニケーションの場面を設定するとともに、情報カードの記述により、特定の言語材料（受け身の文）を使用する必然性をもたせています。



例：現在進行形を用いて、絵について説明する文を言ひましよう。

（夏祭りの様子を表す絵を提示）

#### NG ポイント

- 実際のコミュニケーションの場面が設定されていない。
- 特定の言語材料の使用が明示されている。



#### 改善ポイント

夏祭りの様子をレポートするという実際のコミュニケーションの場面を設定し、特定の言語材料（現在進行形）を使用する必然性を！



例：あなたはテレビリポーターです。今、夏祭りの取材をしています。夏祭りに来ている人が何をしているかについて説明する文を言ひましよう。（夏祭りの様子を表す絵を提示）

## (2) 「思考・判断・表現」の評価問題

「話すこと [発表]」における「思考・判断・表現」は、**コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じた表現内容の適切さ**を評価します。評価問題の例を以下に示します。

### 【例】

〔指示文〕英語の授業で、あなたは「中学生にとって携帯電話は必要か。」というテーマで意見を発表します。聞き手に納得してもらえるように、あなたの立場を示し、その理由とともに意見を発表しましょう。

### ポイント

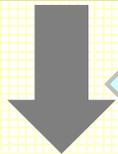
- ① 「話すこと[発表]」の目標に対応した評価問題を作成することが大切です。
- ② 「思考・判断・表現」は、コミュニケーションを行う目的、場面、状況に応じた表現内容の適切さを評価します。したがって、表現内容の適切さを評価する基準となりうるコミュニケーションを行う目的や場面、状況を設定する必要があります。



例：〔指示文〕新しい ALT が佐賀中学校にやってきました。私たちが住んでいる佐賀市について紹介しましょう。

### NG ポイント

□コミュニケーションを行う目的や場面、状況が具体的に設定されていないので、何ををもって表現内容の適切さを評価するのが難しい。



### 改善ポイント

〔指示文〕を change!  
コミュニケーションを行う目的や場面、状況を具体的に設定!



例：〔指示文〕日本の歴史と食べ物が好きな新しい ALT が佐賀中学校にやってきました。私たちが住んでいる佐賀市に興味をもってもらえるように、佐賀市の魅力を紹介します。

評価問題においては、〔指示文〕にコミュニケーションを行う目的や場面、状況を具体的に示すことで、表現内容の適切さがより評価しやすくなります。



- ③ 「思考・判断・表現」を実際に評価する際は、表現内容の適切さを評価するための条件を設定します。条件を設定した上で、判定基準(ルーブリック)を作成し、評価を行うとよいでしょう(p.5参照)。
- ④ 「思考・判断・表現」を実際に評価する際は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じた表現内容の適切さを評価します。英語使用の不正確さが「思考・判断・表現」の評価に反映されることがないようにします。
- ⑤ 発表を評価する際は、生徒に原稿を暗記させて発表させるのではなく、メモなどを基に即興的に発表する場を設定することを心掛けましょう。

## 6 「書くこと」における評価問題

### (1) 「知識・技能」の評価問題

「書くこと」における「知識・技能」は、**英語使用の正確さ**を評価します。評価問題の例を以下に示します。

#### 【例1:主に「知識」を評価する問題】

以下は電話でのやりとりです。A と B のどちらかの発話に誤りが1カ所誤ります。その誤りがある文を正しい文に書き換えなさい。

A: Hello. Are you busy now?  
B: Not really. I watch TV.

『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』より

#### 【例2:主に「技能」を評価する問題】

あなたは、来月訪れる予定の留学生のために自分が所属しているサッカー部を紹介する記事を書くことになりました。次の情報カードのすべての内容と写真を用いて、記事に掲載する原稿を書きなさい。

【情報カード】

部活動	サッカー部がある
活動状況	毎日練習している
キャプテン	佐藤くん
写真の説明	彼（＝佐藤くん）はボールをシュートしている
チームの状況	強い



『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』より

### ポイント

- ① 実際のコミュニケーションの場面を設定することが大切です。
- ② 特定の言語材料を使用して評価問題を作成します。
- ③ 評価問題においては、特定の言語材料の使用を明示することは避けます。【例1】においては、実際のコミュニケーションの場面を設定するとともに、対話の文脈から特定の言語材料（現在進行形）の使用を促します。また、【例2】は、情報カードの記述により、特定の言語材料（人称及び現在進行形）を使用する必然性をもたせています。



例：以下の単語を並べ替えて正しい文を作りなさい。文頭に来る単語も小文字になっています。

（ ア playing イ are ウ now エ we オ tennis ）

### NG ポイント

- 実際のコミュニケーションの場面が設定されていない。
- 特定の言語材料の使用が明示されている。

改善ポイント

SNS 上でのやり取りとして実際のコミュニケーションの場面を設定し、特定の言語材料（現在進行形）を使用する必然性を！

OK

例：以下は、A と B の SNS 上でのやり取りです。対話の流れに合うように（      ）内の単語を用いて、会話が成り立つように英語を完成させなさい。

A: Where are you now?  
 B: I am in Midori Park with my friend.  
 A: What are you doing?  
 B: ( play ) tennis now. Why don't you join us?

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』より

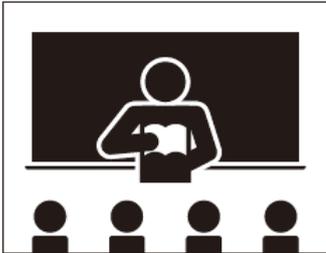
**(2) 「思考・判断・表現」の評価問題**

「書くこと」における「思考・判断・表現」は、**コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じた表現内容の適切さ**を評価します。評価問題の例を以下に示します。

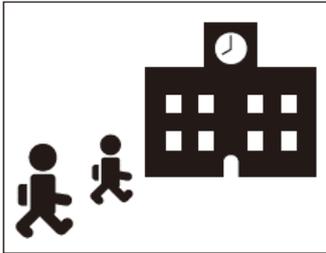
**【例1】**

**10** 海外のある町が、外国人旅行者にも分かりやすいタウン・ガイドを作成するために、「学校」を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）のうち、どちらがよいかウェブサイトで意見を募集しています。どちらかの案を選び、2つの案について触れながら、あなたの考えを理由とともに25語以上の英語で書きなさい。

【 A 】



【 B 】



※ 短縮形（I'm や don't など）は1語と数え、符号（, や ? など）は語数に含めません。

(例)    No,            I'm            not.            【3語】

「平成31年度 全国学力・学習状況調査」より

**【例2(領域統合型)】**

〔指示文〕  
 カナダに住む学生のエマ（Emma）からあなたに次のようなメールが届きました。あなたはこれからエマにメールを返信します。エマが知りたいことについて、その具体的な説明やお勧めの理由などを含めてメールを作成し、返信しましょう。

Hi, I'm Emma. I'm a junior high school student in Canada.  
 I'm really interested in Japan. Especially, I want to read Japanese manga. What is the most popular manga in Japan? Please tell me the title and its story.  
 Thanks,  
 Emma

ポイント

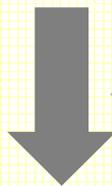
- ① 「書くこと」の目標に対応した評価問題を作成します。
- ② 「思考・判断・表現」はコミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じた表現内容の適切さを評価します。したがって、表現内容の適切さを評価する基準となりうるコミュニケーションを行う目的や場面、状況を設定する必要があります。



例：〔指示文〕 日本を紹介するパンフレットを作らしましょう。

NG ポイント

□コミュニケーションを行う目的や場面、状況が具体的に設定されていないので、何をもちて表現内容の適切さを評価するのが難しい。



改善ポイント

〔指示文〕を change!  
コミュニケーションを行う目的や場面、状況を具体的に設定!



例：〔指示文〕初めて日本を訪れる外国人観光客向けに、パンフレットを作ることになりました。あなたは、A Gift from Japan! (日本らしいお土産)の記事を担当します。そこで、あなたがすすめたいものを1つ決めて、理由とともに 30 語以上の英語で記事を書きましょう。

「平成 30 年度 予備調査問題」より

評価問題においては、〔指示文〕にコミュニケーションを行う目的や場面、状況を具体的に示すことで、表現内容の適切さがより評価しやすくなります。



- ③ 「思考・判断・表現」を実際に評価する際は、表現内容の適切さを評価するための条件を設定します。条件を設定した上で、判定基準(ルーブリック)を作成し、評価を行うとよいでしょう(p.5参照)。
- ④ 「思考・判断・表現」を実際に評価する際は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じた表現内容の適切さを評価します。英語使用の不正確さが「思考・判断・表現」の評価に反映されることがないようにします。
- ⑤ 9ページ【例2】のような「書くこと」の能力に重点を置いた領域統合型の評価問題においては、文章の難易度に留意し、「読むこと」の負担を減らしましょう。

## 7 評価問題見直しのポイント

評価問題を作成したら、その適切さを見直すことが大切です。評価問題見直しのポイントを以下に示します。

### チェック ✓

- 評価したいことを適切に問う問題になっているか。
- 当該学期や当該学年で扱った言語材料が使用されているか。
- 背景知識がある生徒に有利な内容になっていないか。
- 未習の語や文構造はないか。  
ただし、文脈によって意味の推測が可能で、解答に関連しない箇所ならば使用することは考えられる
- 問題文や指示文は、分かりやすい文章で、誤解が生じない表現になっているか。
- 「知識・技能」の評価問題において、実際のコミュニケーションの場面が設定されているか。
- 「思考・判断・表現」の評価問題において、コミュニケーションを行う目的や場面、状況が具体的に設定されているか。
- 選択式の場合、誤答の選択肢の中に正答になりうるものはないか。
- 他の問題の答えを示している問題はないか。
- 親子問題(問1が解けないと問2も解けない)になっていないか。

など

